

淡きひかり立つ にわか雨  
いとしおもかげの 沈丁花  
あふるゝ涙のつぼみから  
ひとつ ひとつ かほりはじめる

それは それは 空をこえて  
やがて やがて 迎へにくる

春よ とほき春よ まぶた閉じればそこに  
愛をくれし君の なつかしき声がする

君に預けし わがこころは  
いまでも 返事を待っています  
どれほど 月日がながれても  
ずっと ずっと待っています

それは それは 明日をこえて  
いつか いつか きっととどく

春よ まだ見ぬ春 まよひ立ちとまるとき  
夢をくれし君の まなざしが肩を抱く

夢よ あさき夢よ 私はここにいます  
君を想いながら ひとり歩いていきます  
流るる雨のごとく 流るる花のごとく

春よ とほき春よ まぶた閉じればそこに  
愛をくれし君の なつかしき声がする

春よ まだ見ぬ春 まよひ立ちとまるとき  
夢をくれし君の まなざしが肩を抱く

春よ とほき春よ まぶた閉じればそこに  
愛をくれし君の なつかしき声がする

春よ まだ見ぬ春 . . .